

「板倉造り」

板倉造りとは？

日本古来の伝統工法です。

代表的な板倉工法としては、校倉造りで有名な国宝正倉院や伊勢神宮をはじめ、各地の神社仏閣に見ることができます。

日本は太古より「農耕民族」であったため、自分達の「命」を守る大切な穀物を保存しなければなりませんでした。それも、雨から穀物を守るだけでなく、高温多湿な湿度にも気を使い、適切な温度と湿度の管理をする必要があった分けです。

「板倉造り」は「板」で「倉」を「造り」ます。

板倉造りの家は、具体的に 4 寸角(120mm)の杉(桧)の柱に溝を掘り、その溝に沿って厚さ 1 寸の杉板(30mm)を本ざね加工し落とし込んでゆき、外周りをすっぽり杉板で囲んでしまう工法です。

板倉造りはやわらかい杉の無垢材からなる構造なので、粘り強い耐震性を持っております。

板倉造りは、平成 17 年 9 月、国土交通省より建築基準法による壁倍率(壁の強さを表す)が「2.2」に性能認定され、地震時の水平方向

に対して木材の特徴の一つである「粘り」を発揮する横圧縮力(メリコミ)で吸収することが実証されました。(一般的な木造モルタルの家の壁倍率は 0.5 です。)

板倉造りは、地震国ニッポンには安心・安全な工法であり、日本の気候風土にも「ピッタシ」合った工法でもあると言っても過言ではありません！

板倉造りの家は日本人の知恵から生まれた家ですね。

板倉造り日光杉の家は、国産材であり栃木の銘木日光杉(日光材や栃木県産材)を使用し、一般住宅やみせかけの健康住宅に比べて約 3 倍もの無垢材を使います。

板倉造り日光杉の家は、柱・壁・床・天井に全て日光杉の無垢材を使用しますので、カビやダニ、シックハウスとは無縁の、本当の意味での「健康エコ住宅」です。

板倉工法の家は、建築家でもある安藤邦廣教授により住宅への応用が提唱され、現在日本各地で取り組み始められました。

板倉造り日光杉の家は、
「木造軸組工法」+「板倉造り工法」+「パネル工法」を採用しており、
近年多発している地震に、ユーザーがナーバスになっている「耐震

性」をも考慮しております。

又、板倉造り日光杉の家は、杉板を外囲部のみ使用し、内部の間仕切り壁は杉板だけだと単調になりがちで、少しうるさく(おもたい感じに)なるのを防ぐべく、珪藻土やシックイで仕上げ、「近代和風の品の良さ」を提案させていただいております。

杉板のやさしい素材感と木の香りにやすらぎを与えてくれる板倉造りの家には、シックハウス等の影響はありません。

昨今話題になっている「環境問題」に建築が必ずと言ってもいいくらい取沙汰されますが、板倉造りの家は、廃材処理等による有害物質も出にくく、リサイクルに適した、まさに地球にやさしい家です。

どうぞ、板倉造り日光杉の家を手で触れて、肌で感じてください。
木の香り漂う健康エコ住宅を！！

板倉造り日光杉の家

栃木・群馬の木造注文住宅工務店

株式会社 大生建物

代表取締役社長 植木文夫